

献 詞

2003.3.21

会長 重光茂榮

日本台湾医師連合成立滿週歲、一年來多蒙會員的多方支持和協力、在值得紀念的 3 月 21 日又能召開 2003 年的定期總會、謹在此向會員們致慶賀之忱及感謝之意。

在 21 世紀初期的今天、全世界的人類正面臨核武器及殺傷力極大的生物化學武器及無差別的恐怖等的威脅、如何使人類免除恐怖而能過和平又安全的生活、就有賴人類的知惠、努力和忍耐、期待能找出合理而最良善的解決方策。

在日本標榜構造改革而誕生的小泉政權、在金融政策及通貨緊縮對策上敵難行、已漸漸失去國民的信賴和支持、但是在醫療改革方面則是特別突出、去年 10 月的首次診療報酬的減額改定、今年 4 月保險本人的 3 割負擔及開放企業的醫療參入等、都顯示出醫療環境將繼續的困難下去、本連合應和日本醫師會及齒科醫師會協力共同努力、共渡難關。對渡海來日創業、現在從事地域醫療的會員們也是一個新的試練、祈念會員們無事過關。

隔海對面的故鄉台灣、最近商業主義的橫行、大小企業的所謂“錢進大陸、債留台灣”、發生產業空洞化的危機、台灣未來的經濟發展、使人憂慮。而在政治方面、去年的台北和高雄兩市的市長選舉、一位醫療關係者又是執政黨所提名的候補者提出的政見也不錯、可惜也只是以善戰終了、此次的選舉結果如何反映到明年的總統大選尚有待觀察。昨日尚是敵對關係的兩位野黨的黨主席將組成一選舉組合、挑戰現任總統、真的是政治的世界眼前一寸是黑暗（一寸先は闇）、誰都無法予想未來的政治去向、明年的台灣總統選舉可以想像必定是一場熾烈的選戰、希望能選出一位和本連合的理念一致的台灣總統。

萬事起頭難、台醫連成立剛滿一年、以一醫師團體的專業的知識來提升台灣的國際地位、很需要會員的協力和參加。各位理事除了日常診療之外、又要為會盡力、非常感謝一年來的辛勞、PR 不足的關係也許有些地方未能達到會員們的理想、在此深深的反省並懇請大家的指教及諒解。

今年的定期總會時將選出新的執行部、期待並希望新執行部能更活躍。最後祝福大家身體健康、祝福自主性的台醫連更發展壯大。

日本台湾醫師連合 2003 年定時總會

2003.3.21

会務報告

会員数 平成 15 年 3 月 21 日現在 146 名

理監事会 9 回開催

特別委員会の設置 WHO 特別委員会

役員選挙委員会

第 1 回執行部の理事の分担又は協力した事を逐条報告します

- 1, 創立大会と懇談会の開催 (14 年 3 月)
- 2, 台湾医界盟基金会成立 10 周年特別発行への祝辞文(14 年 3 月)
- 3, JTMU(台医連)
- 4, “台湾の WHO 加盟に賛成を求める要望書”を発送——小泉内閣総理大臣
川口外務大臣 坂口厚生労働大臣あてに (14 年 4 月)
- 5, 台湾の WHO 日本訪問団(団長 呉樹民先生)との懇談会(14 年 4 月)
- 6, 台湾総統府顧問陳隆志教授と羅副前代表ご夫妻との懇談会(14 年 5 月)
- 7, “台湾の WHO 加盟の反対に対する抗議書”を発送——フランスとスペイン駐日
大使宛てに(14 年 7 月)
- 8, 代表処羅副全代表ご夫妻と各組長との懇話会(14 年 8 月)
- 9, 台湾外交部 衛生署 委会主催の第 2 回海外医事人員参訪団への参加(14 年 8 月)
- 10, 世界台湾同郷会 合会第 29 回年会への参加(14 年 8 月)
- 11, 21 世紀アジアの平和と安全を考える会に出席(14 年 8 月)
- 12, JTMU(台医連)ホームページを通じて WHO 幹事長宛てに台湾の WHO 加盟運動
の on-line 署名を協力推進(14 年 8 月)
- 13, 本会の事務局を設置(14 年 9 月)
- 14, アメリカ FAPA メンバーの游祥修医師と MR 昆布老の講演会“海外如何推動台湾
加入 WHO”への共催(14 年 10 月)
- 15, 日本自由党党首衆議員議員小沢一郎様の講演会“小沢一郎が考える 21 世紀の日本
及びアジア”を主催(14 年 12 月)
- 16, 日本台湾医師連合忘年懇親会を開催(14 年 12 月)
- 17, 日本台湾医師連合パンフレット(小冊子)の発行(14 年 12 月)
- 18, 日本李登輝ともの会成立大会への参加及びお祝いに花束の送付(14 年 12 月)
- 19, 立川市市長への抗議書——金美齡女史講演会中止の件に関して(14 年 12 月)
- 20, 連合の便り“さと医も便り”創刊号の発刊(15 年 1 月)
- 21, 次期全役員の募集(15 年 1 月)
- 22, アフリカの医療従事者との交流(15 年 2 月)
- 23, “衆議員議員水野賢一君を励ます会”を会員への案内(15 年 3 月)
- 24, 外交評論家、元駐タイ大使岡崎久彦様の講演会
“最近の国際情勢と日本外交～台湾の戦略的意義”を主催(15 年 3 月)
- 25, 2003 年度台医連定時総会と懇親会の開催(15 年 3 月)

Africa. まことに遠い大陸です。

台医連は今まで、まったくと言っていいほど、アフリカを視野に入れていませんでした。心情的にも、力にしても、そこまで余裕がなかった。しかし、奇遇と言いか、アフリカと思わぬ接触が出来ました。

2月のある会合に、台湾に大変好意を抱いている日本人と台医連の WHO 工作の話をしたところ、日本在住のアフリカ人医師を紹介して、さらに、ガーボン大使と面会できる運びになりました。

では、なぜガーボンか。

ガーボンは小国ですが、国民所得は南アフリカに続く高水準であります。また、他のアフリカの国々と違って、部族、宗教の紛争はなく、政治的に大変安定しているので、西アフリカの国々をまとめていく国と期待されています。

アフリカ攻略をまずガーボンからと言われた所以です。

この奇遇を作ってくれたのが石戸谷慎吉先生でした。生粋の日本人が、台湾に熱い心を持っている方です。彼の紹介で Dr. Milanga とコンゴ民主共和国友好協会会長の丘伸治さんと”遭遇”できました。遭遇しにいった台医連の一団に、岡山副会長、長峰常務理事、中里理事、東理事と小生がいました。

2月23日の夜。台医連とアフリカとの最初の接触。

Dr. Milanga はコンゴの出身で、現在日本医科大に在籍中の病理学の研究者です。西アフリカは勿論のこと、WHO 本部にも、豊富な人脈を持っています。数年前から台湾との交流があったので、台湾の事情も明るいようでした。大きな岩のような立派な体格と人懐こい微笑みが大変印象的でした。また、丘さんとは初対面ですが、お父様が台湾人のこともありまして、最初から心が通う感じがしました。物腰が大変柔らかく、なかなかの好男子でした。こんなに頑張っている台湾系日本人がいることは、大変心強いものを感じました。石戸谷先生は、台湾とか、アフリカとかの情報を面白いほど泉のごとくどんどん湧き出してきた。この方は、いったいどうやって、また、どこからこんなに多い情報を手に入れるのでしょうかと不思議で仕方がないでした。布衣国士で、こんな人をさしているのではないかと思いました。

二三日後、石戸谷先生が、また、手品師のように、ガーボン大使に面会のアポを取ってくれました。そうして、27日に毛利副会長、武田常務理事と小生が Obame ガーボン大使と初対面を果たしました。

石戸谷先生と Dr. Milanga の援護射撃をいただきながら、JTMU の台湾 WHO 観を Obame 大使に申し上げました。とにかく、生まれて初めて、大使閣下と face to face で、自分も良く分かっていない WHO のことを不慣れの英語でたどたどしく述べたので、まったく図々しいもいいところでした。そこに、初めて気付いたのが、台医連は、日本に向かってメッセージを考えていたのですが、アフリカもしくは、世界に向かって発信することまでは思索していないことでした。台湾とガーボンと既に民間レベルの経済交流がありまして、Obame 大使は、台湾のことを良くご存知でした。台湾の WHO observer には賛成の意を表してくれました。また、台医連のメッセージを WHO の本部まで送ってくれる約束もしてくれた。ちなみに、大使の妹さんは、現ガーボン駐 WHO の代表を務めている方でした。Dr. Milanga もその後、JTMU の英文メッセージを Geneva WHO 本部まで持っていきまして、多くのアフリカの厚生行政の責任者(16カ国ほど)に手渡ししてくれました。この件について、Dr. Milanga が、去る3月21日の総会懇親会に報告してくれました。(27日の時点では、英文の letter は間に合わなかった。後日、頌彦先生が徹夜して苦心作の英訳を送っていただきましたが、しかし、内容は日本向けの WHO petition ので、アフリカもしくは、世界向けの発信としては、やや不適切ではないかと考えました。内容を勝手に修正して、世界向きにしました。また、なるべく簡潔に、要点だけを述べて、そのメッセージを JTMU の紹介と一緒に A4 紙一面のまとめました。30部を Dr. Milanga に郵送しまして、Geneva へたつには間に合いました。

そうして、我々のメッセージは、WHO 本部の心臓部までに届きました。確実に。

その他、石戸谷先生、コンゴ民主共和国友好協会、ガーボン大使館に30部ずつ送りました。

頌彦先生の不眠不休は、無駄ではなかった。)

その成果は、今後の楽しみです。

しかし成果は別として、我々がこんなに良い人に恵まれるところは、神様に感謝した気持ちで一杯です。

人生で思わぬところに、思わぬ人と巡り合い、思わぬ展開になるとつくづく感じました。

そうして、今度のアフリカ邂逅から多くのことを学びました。

台湾のWHOの戦略について、勿論あるでしょう、我々は、まったく言うっていいほど分からない。連携プレイの話にはとつてもなりません。おそらく、各地域の台湾人医師団体が勝手に動いているでしょう。

いったい、全世界の戦略的の指揮を何方がとっているでしょうか。実に、良く分からない

いし、また、それでいいのかも知れません(?)。

アフリカに金銭、物質の援助は、無意味ではないが、それほど、効果をあげられないでしょう。人的な支援、人と人の接触が一番感謝されるのではないか。言い換えれば、医師と患者の関係が、もつとも信頼でき、力強い関係になるでしょう。

アフリカは、結構台湾に期待しているのではないか。我々は、このことをどうやって、台湾に有効に働くべきでしょうか。

我々は日本にいて、日本はどう見られているかは、よく分からないが、日本はアフリカから見れば、途方もない大きな国でしょう。日本にいてという好条件で、全世界を意識して発信できるのではないか。我々は、”日本”というブランドを存分利用できるのではないか。

JTMUは、決して大きい団体ではないし、それほど力をもっている団体でもないと思います。しかし、150名の医師の団体は、外部から見れば、やはり大層力持ちのように見えるでしょう。アフリカから見れば、途方もない大団体に見えるのかも知れません。

日本に、まだまだ石戸谷先生のような、いわゆる布衣国士の方がいると思います。彼らは、下心もなく情熱を持って台湾を助けてくれる。サムライの現代版のような人物でしょう。こういう人を一人でも多くわが会の友人になっていただければ、いろんなところに、いろんな人とつながっていくし、いろんな思わぬいい展開が得られるでしょう。

日本にいるアフリカ外交官は、殆んどがその国にもつとも矚目されている人物と思います。当然将来は、その国の外交を担う方でしょう。不謹慎ないい方ですが、東京の政治的地位を利用し、医師という身分を利用して、我々の力で民間レベルの交流は十分出来るのではないか。台湾の将来の為と言いつつ、堅苦しいし少々大げさになりますが。しかし、アフリカの方と交流も楽しいものがあります。

アフリカ大陸は、今も遠いと思います。

しかし、日本の中のアフリカは、近い、また、近くできるのではないか。

軽微的期望

楊 超然

去年底回台省親、雖然来去匆匆、卻幸而有機會與一位在文化界頗為活躍的前輩同席吃飯。飯後又承蒙其厚意、到他府上叨擾了一陣。那天晚上、他感慨万千地說：「阿扁仔下回選總統、我照樣會支持他、也投他一票。但不會再像前回那樣為他奔走 命了！」我聽了不禁心頭一震、問他為什麼？他回答說、二千年大選時、他在台灣、美國兩地、不辭勞苦無分日夜、為阿扁的競選而四處募款、站台、喊得聲嘶力竭、得死去活來。又與幾位關心台灣文化的朋友、竭思盡慮地設計了一「文化白皮書」、提供給阿扁參考。但當上了總統以後、阿扁對他們提出的建議、卻幾乎都無採用！他說這些話時、神色有黯然。不過沈默了方刻之後、他又振作起來、好像為自己打氣似地說：「我們在文化、宣傳方面所做的都還不、還得更 命去做才行！」

我們這些台灣本土派的書生、對阿扁的確抱有相當大的希望。希望他執政期間能有一番有益於台灣的作為。但兩年多來、新政權在陳總統領導下的施政措施、實在談不上有守有為、使大部

分的支持者頗有怨言。国親両野党的頻頻制肘、固然是執政党拳步難行的主用原因。一方面、本土派的支持者也不至於天真到以為換了民進黨執政、阿扁總統領航、台灣所面臨的種種難題就可順利解決。不過、從当初的核四廠問題到最近的農會信用部整頓等等一連串的混乱、卻也实在讓人洩氣。

曉此種種、就当他是陳總統就任後執政前半期摸索過程中的挫折！他能從這些挫折裏汲取教訓、在以後的政策推行上、能更深思熟慮審慎分析、更有遠見、更有自信。誠如一位老前輩告誡我的話：「我們不可失望！」是的、我們不可失望。我們迫切希望阿扁總統在後半期、至少在教育改革和文化建設上、能有足以讓人耳目一精神一振的作為！

平成15年3月24日

田中康夫知事殿

日本台湾医師連合
会長 岡山 文章

正々堂々たる台湾訪問を希望致します。

3月18日付の信濃毎日新聞で、貴殿が県日中友好協会による訪台中止の申し入れを受け入れられなかったことを知り、安堵しております。

私たち日本台湾医師連合は、日本全国に在住する台湾出身の医師、歯科医師が平成14年3

月に結成した団体です(会員 146 名)。

私たちは日常、患者、地域、医師会の方々から、台湾へ行った時の楽しい思い出などをしばしば聞かされ、本当に大勢の日本人が台湾に親しみを抱いていることを実感しています。貴殿の台湾訪問に関しても、多くの方が支持し、期待しているものと確信しております。

台湾では一般に、日本に対して親しみを感じております。そのため岐阜県の高山地区など、日本各地を訪ねる台湾の観光客も年々増え、若い世代の日本理解も進んでおります。私たちも日本で生活する事によって、日本の伝統文化への認識が深まり、今では親の世代の親日感情や、台湾近代史の推移についても理解できるようになりました。

交流というものがいかに大切であるかは今更言うまでもありません。日台の絆を深める事を目標の一つとしている本連合は、貴殿の台湾訪問をきっかけに、より多くの台湾人が日本、そして長野県を観光に訪れ、両国の友情が広がる事を願って止みません。

台湾は政府も国民も、まったく日本と中国の友好に反対しておりません。しかし日本と台湾との民間交流を政治問題化しようとする一部の言論には反対せざるをえません。

「日中共同声明」にも「日中平和友好条約」にも「日本は台湾との交流を停止する」「日本は中国の台湾政策に協力する」とは規定しておりません。それにも関わらず、貴殿の台湾訪問の中止を要請するのは、明らかに政治問題化の意図によるものです。

貴殿には、ぜひ正々堂々と台湾にお出かけいただけるよう希望致します。

日本台湾医師連合定時総会及び特別講演会の報告

中里憲文

日本台湾医師連合定時総会及び特別講演会は平成 15 年 3 月 21 日(金曜、春分の日)東京都目黒区豪華ホテル雅叙園の華しずか会場にて総会と岡崎久彦先生(外交評論家、元駐タイ大使)を招き「最近の国際情勢と日本外交～台湾の戦略的意義～」をテーマとして特別講演しましたのでご報告させていただきます。

第一部:定時総会(司会中里憲文先生)

当日2時から定時総会が行われまして、最初は重光茂栄会長のご挨拶をいただきました、その後、王紹英先生が議長に選任され、河田啓輝先生と清水栄先生が議事録署名人に選ばれまして、総会の議事をスムーズに進行されました。重光茂栄会長の25項目会務報告を始め、長峰俊次先生がWHOの加盟活動について、東昌明先生が選挙委員会について、私はJTMUパンフレットの製作について、王紹英先生はホームページ開設について、岡山文章先生はさと医も便りの発行について、新生一年目の日本台湾医師連合は大変すばらしい活動が報告されました。その後毛利忠先生の会計収支現状と元山逸功先生の会計監査が相違なしとの報告がありました。選挙委員会が次期役員選挙報告をなさり、新役員次期会長、19名理事、3名監事は会場一致の拍手で承認されました。最後に毛利忠副会長閉会の辞のあと臨時座談会がありまして、布施先生からすばらしい議案が提出しまして、次期の会務に良い検討事業になりました。日本台湾医師連合の活動は役員と理事だけでなく会員一同が共に知恵を出して、熱心と奉仕(時間と金銭)の精神で参与しなければ発展できないものだと思います。2年目の日本台湾医師連合の活動を大いに期待しています。

第2部:講演会:司会東昌明先生

講師岡崎久彦先生:最近の国際情勢と日本外交～台湾の戦略的意義～

4時から台湾総統府国策顧問金美齡先生講師のご紹介で始まり、さすが名評論家岡崎久彦先生の講演会は予定よりも沢山のご来賓が見え、2回ほど座席を追加したご盛況でした。先生は最近の国際情勢、特に昨日から始まったイラク戦争と北朝鮮の問題を鋭く解説して、日本とアメリカの政治上、外交上の影響だけでなく経済面でドル、円、株、石油の相場に対する影響も精彩的分析しました。(当日の来場者には大変参考になったでしょう)。最後には台湾の戦略的意義にも触れて、特に最近の著作にもある色々なシナリオ、例えば中国が台湾に対する三つのシナリオについても分析をなさいました。講演のあと沢山のご質問も出て、すばらしい講演会となりました。

台湾と日本が心配することは、中国の安い人件費を吸磁作用として経済力がどんどん大きくなり、国力、軍事力が増大して、東アジアの力のバランスが崩れることです。台湾は東南アジアと東北アジアの“要”は明白です、日米安全保障にはかかすことの出来ない航空母艦です、台日米韓の連携はアジア安定に不可欠の防衛線で、アジアと世界の安定には台湾はいつまでも民主と自由の陣営に入っていることはとっても大事な事実だと思います。

第3部:懇親会(司会武田守祿先生)

最初は次期会長岡山文章先生と台湾駐日大使羅福全先生のご挨拶を頂きました。そして、台
医人大先輩林益弘先生の乾杯音頭にて宴会が進行いたしました。台湾のWHO加盟運動にアフリ
カの友人ができ、沢山のパイプが出来ました、その特別来賓にコンゴ共和国のDR.ミランガ、元コ
ンゴ共和国顧問石戸谷慎吉先生、NPO代表丘伸治先生と少年時代を台湾で過した元読売新聞
社記者鈴木襄様から挨拶をいただきました。ほかに特別のご来賓、羅代表夫人、宗像隆幸先生、
周英明教授、評論家廖建龍先生...…が紹介されました。各テーブルで皆様楽しいお酒を飲み、おい
しい料理に舌つつみを打ちながら、それぞれの話題に花を咲かせました。2時間あまりの楽しい時
間はあっという間に過ぎていきました。締めの話しはとてもユーモアのある森山勝宣理事の閉会の
言葉により、お開きとなりました。本大会に協力をいただいた関わりの皆様、本当にご苦労様でした。

平成 14 年度日本台湾医師連合役員任期満了退任役員

重光茂栄 簡野邦彦 頌彦真賢 森山勝宣 葵 東海 莊司 明
井上 岳 陳 正雄 小島武彦 広中俊賢 元山逸功
一年間ご苦労様でした

平成 15 年度日本台湾医師連合役員人事

任期:平成 15 年 4 月 1 日から平成 17 年 3 月 31 日まで

会長:岡山文章

副会長:毛利 忠 丘 哲治

常務理事:長峰俊次 中山博雄 武田守祿 東 昌明 (会長、副会長含む 7 名)

理事:王 愛熙 徳泉 治 天沢佳明 林 明憲 王 紹英 清水 栄

河田啓暉 劉 国揚 李 郁文 大平良和 中里憲文 高村 豪

監事:河元康夫 蘇原寛敏 孫 正徳

期待を込めて、おめでとうございます